

---

# 誰もいない

たかむ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

誰もいない

### 【コード】

N0505BA

### 【作者名】

たかむ

### 【あらすじ】

これから始まる話しはある社会人が見た夢の内容の一部である。それは、暗い夜の物語なのだった。

いつの間にか俺は真っ暗な森の中にいた。  
今、時間は何時何だろう。そしてこの森は何の森なのか。訳が解らず俺はこの森を出ようと走った。

ーどれくらい走ったのだろう。走っている内に電柱の光が見えた。

「森の中に何で電気が？」

とある電柱の光を見て希望が見えたと思った。

近くには何故かコンビニのナイトがあった。

「何で森の中にコンビニが…」

とりあえずコンビニのナイトに入った。

「いらっしやいませ」

店内は音楽は流れていなかった。客は俺一人しか居なくて店員も一人しか居なかった。

どことなく不気味に感じた。

空腹だった俺はチョコデニッシュとチョコチップメロンパンとビタミンウォーターを買った。

「ありがとうございます」

店を出て周りが急に暗くなった。

後ろを見たら先程まで入っていたコンビニがなくなっていて塀になっっていた。

「さっきまで買い物してたのに」

怖くなりその場を走り去った。

俺は走った。走って、走って、走って、走って、走った。走り続けた。どれくらい時間が経ったのか。時計や携帯を持っていなかったが何となくもう10時間位は経っている気がした。

走っているとまた電柱が見えた。

「やった、また光があった」

辺りを見回すと古い木造の一戸建てを見つけた。

「森の中に家が…」

家の周りを調べてみたが人が居る気配が無く電気もついていなかった。だが、ドアには鍵がかかかっていなかった。

鍵をかけ忘れたのか、それとも……

「ここで一晩泊めてもらえるかな。UNOとトランプ持ってくりやよかった」

呼び鈴を探したが何処にも見当たらなかった。

「すいませーん」

しかし、返事がなかった。

「とりあえずここで飯食うか」

先程買ってきた飯を食べようとした時だった。

ピピピピ、ピピピピ、ピーピー、カチ。

目覚ましが鳴って俺は目を覚ました。

「今のは夢だったのか。何だったんだ？」

夢を気にしながら朝飯を食べて俺は会社へ行った。

(後書き)

初めて書いた小説なので不適切な部分があるかもしれません。よろしくお願ひ致します。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0505ba/>

---

誰もいない

2012年1月1日00時48分発行